

四半期報告書

(第106期第2四半期)

昭和シェル石油株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	10
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	23

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月9日

【四半期会計期間】 第106期第2四半期
(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 昭和シェル石油株式会社

【英訳名】 SHOWA SHELL SEKIYU K. K.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長グループCEO 亀岡 剛

【本店の所在の場所】 東京都港区台場二丁目3番2号

【電話番号】 03(5531)5594

【事務連絡者氏名】 執行役員 坂田 貴志

【最寄りの連絡場所】 東京都港区台場二丁目3番2号

【電話番号】 03(5531)5594

【事務連絡者氏名】 執行役員 坂田 貴志

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

昭和シェル石油株式会社 近畿支店
(大阪市中央区道修町三丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル)

昭和シェル石油株式会社 中部支店
(名古屋市中村区名駅三丁目25番9号 堀内ビル)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第105期 第2四半期 連結累計期間	第106期 第2四半期 連結累計期間	第105期
会計期間	自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日
売上高 (百万円)	851,582	947,473	1,726,075
経常利益 (百万円)	13,233	27,323	47,840
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	5,233	16,046	16,919
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,464	17,697	14,685
純資産額 (百万円)	239,456	252,539	242,518
総資産額 (百万円)	912,536	890,389	976,134
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.90	42.61	44.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	24.0	26.0	22.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	20,154	△9,813	80,922
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△13,546	△7,447	△16,543
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△6,137	△59	△33,778
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	18,550	31,652	49,126

回次	第105期 第2四半期 連結会計期間	第106期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	32.33	5.19

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

（石油事業）

当第2四半期連結会計期間において、常陽シェル石油販売株式会社は株式の追加取得のため、連結の範囲に含めております。

また、当社の連結子会社であった上燃株式会社は、当社が保有する株式の一部を売却したため、連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

（エネルギーソリューション事業）

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるソーラーフロンティア・アメリカズの子会社1社は持分の全てを売却したため、連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるソーラーフロンティア・アメリカズの子会社1社は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績については、売上高9,474億円（前年同期比11.3%増収）、営業利益233億円（前年同期比76億円の増益）、経常利益273億円（前年同期比140億円の増益）となりました。この前年同期比での増益は、石油事業において、前年度は原油価格の下落によってたな卸資産評価損が発生したのに対し、当年は評価益が発生したことに主に起因します。なお、たな卸資産評価の影響等を除いた場合の連結経常利益相当額については204億円となり、前年同期に比して38億円の増益となりました。

（原油価格、為替レートの状況）

	ドバイ原油 （ドル／バレル）	為替レート （円／ドル）
平成28年12月期 第2四半期連結累計期間	37.1	111.7
平成29年12月期 第2四半期連結累計期間	51.4	112.3
増 減	14.3	0.6

※各数値は該当期間の平均値によります。

各セグメントの業績は、次のとおりです。

① 石油事業

当第2四半期連結累計期間における国内燃料油需要は、前年がうるう年で営業日が一日多かったため、ガソリンや軽油、灯油などの主要燃料油合計で前年を下回って推移しました。加えて、当社グループにおいては、主力である四日市製油所の定期修理を当第2四半期に実施した影響もあって、当社の国内石油製品販売数量は前年を下回りました。一方で、同期間の原油価格は1バレル当たり50ドル前後で比較的安定して推移し、3月には第二次高度化法の対応が完了したことにより、業界全体として供給能力の適正化が進んだことを背景として、国内燃料油マージンは総じて安定した動きとなりました。四日市製油所の定修影響から国内に対する主燃料の供給を優先して行った結果、製品輸出及びミックスキシレンなどの化成品の販売数量は前年同期比で大幅に減少しましたが、国内販売においては、引き続き高性能プレミアムガソリン「Shell V-Power」や異業種間共通ポイントサービス「Ponta」といった商品・サービスの差別化戦略に注力し、石油事業の顧客基盤強化に継続して取り組み、リテールセグメントにおいては堅調な販売を維持しました。

このような状況の下、石油事業の売上高は8,955億円（前年同期比14.2%増収）、営業利益は271億円（前年同期比87億円の増益）となりました。また、たな卸資産評価の影響を除いた場合の営業利益相当額は203億円（前年同期比14億円の減益）となりました。

② エネルギーソリューション事業

太陽電池事業においては、国内の再生可能エネルギー固定価格買取制度が見直され、国内の新規需要が徐々に鈍化しつつあるものの、足元では住宅用・非住宅用ともに比較的安定した需要が出現しています。一方で、海外の需要は継続的に成長が続いているものの、パネル価格は低迷し、厳しい競争環境下にあります。このような環境下、昨年下半年から新たに構築し取り組んでいる新事業戦略に則り、当社はより高い付加価値が見込まれる国内市場にフォーカスを強め販売を展開しました。国内市場の販売強化に向けて、宮崎工場で生産を開始していた住宅向け戦略商品「SmaCIS（スマシス）」については、当初の計画に沿って7月より本格発売を開始し、住宅メーカー向けのスペックインが順調に進み、受注数量を伸ばしています。加えて、主力の国富工場は、計画に沿って安定稼働を維持するとともに、機能性を大幅に向上させた高出力品（180W及び185W）、新型CIS薄膜太陽電池「SFKシリーズ」の開発を進め、平成29年9月からの受注開始に向けた準備に注力しました。

パネル販売価格は国内についても依然として下落傾向にあり、新事業戦略を軌道に乗せるまでの過渡期として収益は引き続き厳しいものの、当第2四半期単独の赤字幅は前年同期及び前四半期から縮小しました。

電力事業については、引き続き自社発電所は総じて安定的に稼働しました。販売においては、競争が激化する市場環境下においても、高圧・低圧ともに顧客基盤の拡大を進めました。

これらの結果、エネルギーソリューション事業の売上高は478億円（前年同期比24.2%減収）、営業損失は42億円（前年同期比8億円の減益）となりました。

③ その他

その他に関しては、売上高は40億円、営業利益4億円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、8,903億円となり、前連結会計年度末に比べ857億円減少しました。

負債は、6,378億円となり、前連結会計年度末に比べ957億円減少しました。なお、有利子負債（長期・短期借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債の合計）残高は1,477億円となり、前連結会計年度末に比べ100億円増加しました。

また、純資産は、前連結会計年度末に比べ100億円増加して2,525億円となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間における純利益等の増加要因が配当金の支払い等の減少要因を上回ったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は26.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末に比べ174億円減少し、316億円となりました。当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、資金は98億円減少しました（前年同期は201億円の増加）。これは、主に売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費等の増加要因を、仕入債務の減少等の減少要因が上回ったことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、資金は74億円減少しました（前年同期は135億円の減少）。これは、主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入及び売却による収入、短期貸付金の減少等の増加要因を、有形固定資産の取得及び出資金の払込による支出等の減少要因が上回ったことによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、資金は0億円減少しました（前年同期は61億円の減少）。これは、主にコマーシャル・ペーパーの増加等の増加要因を、短期借入金の減少及び配当金の支払等の減少要因が上回ったことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費（含む減価償却費）の総額は、24億円です。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	440,000,000
計	440,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	376,850,400	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	376,850,400	同左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	—	376,850,400	—	34,197	—	22,045

(6) 【大株主の状況】

平成29年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
出光興産株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目1番1号	117,761.2	31.25
アラムコ・オーバーシーズ・カンパニー・ビー・ヴィ (常任代理人 アンダーソン・毛利・友常法律事務所)	スハーヴェニングスウェグ62-66 2517KXハーグ オランダ (東京都港区元赤坂1丁目2番7号赤坂Kタワー)	56,380.0	14.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	23,424.6	6.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	13,531.8	3.59
ザ・シェル・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	シェルセンター ロンドン SE1 英国	7,500.0	1.99
資産管理サービス信託銀行株式会社 (投信受入担保口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	7,083.5	1.88
ザ・アングロサクソン・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	シェルセンター ロンドン SE1 英国	6,784.0	1.80
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	4,275.5	1.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,446.9	0.91
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン・エスエー・エヌブイ・10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	ルー モントワイエストラート 46 1000ブリュッセル ベルギー	3,134.9	0.83
計	—	243,322.4	64.57

(注) 1 シェルグループの持株比率は、ザ・シェル・ペトロリウム・カンパニー・リミテッドとザ・アングロサクソン・ペトロリウム・カンパニー・リミテッドを合わせ、合計で3.79%です。

2 上記所有株式のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりです。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	23,424.6千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	13,531.8千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 (投信受入担当口)	7,083.5千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	4,275.5千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	3,446.9千株

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 168,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 141,000	—	同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 376,387,100	3,763,871	同上
単元未満株式	普通株式 153,800	—	同上
発行済株式総数	376,850,400	—	—
総株主の議決権	—	3,763,871	—

(注) 1 「単元未満株式」欄には自己保有株式80株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ400株(議決権4個)及び50株含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 昭和シェル石油株式会社	東京都港区台場 2丁目3番2号	168,500	—	168,500	0.04
(相互保有株式) 西部石油株式会社	東京都千代田区 神田美土代町7	115,000	—	115,000	0.03
三重石商事株式会社	三重県四日市市白須賀 3丁目6番8号	14,000	—	14,000	0.00
株式会社 シェル石油大阪発売所	大阪市淀川区西中島 2丁目11番30号	10,000	—	10,000	0.00
株式会社昭友	東京都港区東新橋 1丁目2番11号	2,000	—	2,000	0.00
計	—	309,500	—	309,500	0.08

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年1月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,317	32,964
受取手形及び売掛金	233,123	182,503
商品及び製品	78,810	92,597
仕掛品	16,106	16,267
原材料及び貯蔵品	92,067	74,412
その他	40,067	33,956
貸倒引当金	△97	△79
流動資産合計	510,396	432,622
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	86,472	84,039
機械装置及び運搬具（純額）	91,785	84,197
土地	140,850	140,615
その他（純額）	18,309	21,754
有形固定資産合計	337,418	330,607
無形固定資産	9,964	10,225
投資その他の資産		
その他	118,614	117,138
貸倒引当金	△258	△204
投資その他の資産合計	118,355	116,934
固定資産合計	465,738	457,767
資産合計	976,134	890,389
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	254,242	192,049
短期借入金	42,952	53,570
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
コマーシャル・ペーパー	—	20,000
未払金	140,442	112,171
未払法人税等	4,219	3,195
海底配管損傷に係る引当金	94	61
引当金	2,461	2,129
その他	59,440	45,562
流動負債合計	513,853	438,740
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	74,741	54,136
特別修繕引当金	15,494	17,305
海底配管損傷に係る引当金	2,409	2,401
退職給付に係る負債	91,874	90,193
その他	25,242	25,073
固定負債合計	219,761	199,109
負債合計	733,615	637,850

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,197	34,197
資本剰余金	22,123	22,123
利益剰余金	173,645	182,535
自己株式	△186	△187
株主資本合計	229,780	238,669
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,352	2,811
繰延ヘッジ損益	△855	△77
為替換算調整勘定	418	△160
退職給付に係る調整累計額	△10,404	△9,884
その他の包括利益累計額合計	△8,488	△7,311
非支配株主持分	21,226	21,180
純資産合計	242,518	252,539
負債純資産合計	976,134	890,389

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
売上高	851,582	947,473
売上原価	785,476	874,339
売上総利益	66,106	73,133
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	17,812	18,284
人件費	12,268	11,637
その他	20,350	19,849
販売費及び一般管理費合計	50,431	49,771
営業利益	15,674	23,362
営業外収益		
受取利息	69	112
受取配当金	687	795
持分法による投資利益	—	4,002
匿名組合投資利益	576	370
その他	554	535
営業外収益合計	1,888	5,817
営業外費用		
支払利息	1,065	1,132
為替差損	2,438	347
持分法による投資損失	361	—
その他	463	376
営業外費用合計	4,329	1,855
経常利益	13,233	27,323
特別利益		
固定資産売却益	559	12
補助金収入	2,763	2,505
その他	109	580
特別利益合計	3,432	3,098
特別損失		
固定資産処分損	585	1,037
減損損失	212	342
投資有価証券売却損	108	—
投資有価証券評価損	—	1,021
海底配管損傷に係る費用	149	2
賃貸借契約解約損	—	1,146
その他	299	1,206
特別損失合計	1,355	4,757
税金等調整前四半期純利益	15,311	25,663
法人税、住民税及び事業税	3,260	3,874
法人税等調整額	6,079	5,299
法人税等合計	9,340	9,174
四半期純利益	5,970	16,489
非支配株主に帰属する四半期純利益	737	442
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,233	16,046

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	5,970	16,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△696	258
繰延ヘッジ損益	△344	701
為替換算調整勘定	△644	△579
退職給付に係る調整額	295	521
持分法適用会社に対する持分相当額	△115	306
その他の包括利益合計	△1,506	1,208
四半期包括利益	4,464	17,697
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,788	17,224
非支配株主に係る四半期包括利益	676	473

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	15,311	25,663
減価償却費	18,325	14,094
減損損失	212	342
固定資産除売却損益 (△は益)	25	1,024
持分法による投資損益 (△は益)	361	△4,002
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1,135	△926
受取利息及び受取配当金	△757	△908
支払利息及び売上割引	1,065	1,132
売上債権の増減額 (△は増加)	11,293	49,969
たな卸資産の増減額 (△は増加)	14,360	3,218
仕入債務の増減額 (△は減少)	△27,950	△94,228
その他	△5,542	829
小計	25,570	△3,790
利息及び配当金の受取額	742	908
利息の支払額	△1,119	△1,144
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△5,039	△5,786
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,154	△9,813
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△10,202	△8,015
無形固定資産の取得による支出	△723	△565
有形固定資産の売却による収入	1,089	273
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	40	56
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	9,099	1,259
長期貸付けによる支出	△11,143	△24
長期貸付金の回収による収入	1	72
出資金の払込による支出	—	△1,649
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	770
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	565
その他	△1,704	△186
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,546	△7,447
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△17,283	△12,227
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	20,000	20,000
長期借入れによる収入	—	1,000
長期借入金の返済による支出	△590	△610
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△7,156	△7,156
非支配株主への配当金の支払額	△496	△519
その他	△609	△545
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,137	△59
現金及び現金同等物に係る換算差額	△644	△154
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△174	△17,473
現金及び現金同等物の期首残高	15,355	49,126
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	3,369	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 18,550	※1 31,652

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるソーラーフロンティア・アメリカズの子会社1社は持分の全てを売却したため、連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結会計期間において、常陽シェル石油販売株式会社は株式の追加取得のため、連結の範囲に含めております。

また、当社の連結子会社であった上燃株式会社は、当社が保有する株式の一部を売却したため、連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

さらに、当社の連結子会社であるソーラーフロンティア・アメリカズの子会社1社は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

当第2四半期連結会計期間において、従来連結の範囲に含めておりました上燃株式会社は、当社が保有する株式の一部を売却したため、連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

(追加情報)

(当社と出光興産株式会社との経営統合)

当社及び出光興産株式会社は、平成27年11月12日付で対等の精神に基づく両社の経営統合（以下「本経営統合」といいます。）に関する基本合意書（以下「本基本合意書」といいます。）を締結しました。

なお、本基本合意書は法的拘束力を有するものではなく、今後、両社で協議をした上、取締役会決議その他必要な手続を経て、別途法的拘束力のある正式契約（以下「本最終契約」といいます。）を締結する予定です。

(1) 本経営統合の目的

両社は、それぞれの強みを持ち寄り、経営資源を結集することにより、屈指の競争力を有する業界のリーディングカンパニーを作ることで合意しました。本統合会社は業界が抱える様々な構造的課題の解決に先頭に立って取り組み、より効率的かつ安定的なエネルギーの供給を通じて国民生活の向上に資することを目指します。

(2) 本経営統合の方式

本経営統合の方式については、合併によることを基本方針とし、両社の間で今後検討及び協議を進めた上で、正式に決定します。

(3) 本経営統合の日程

本経営統合の日程に関しては、本基本合意書の締結後、両社による相手方当事者及びその子会社に関するデュー・ディリジェンスを実施した上で、本経営統合の最終的な内容及び条件の詳細を定める本最終契約の締結を行い、両社の株主総会での承認をそれぞれ得た後に、平成29年4月1日に本統合会社を発足させることを目指して協議を進めておりました。

しかし、両社は、各ステークホルダーとの協議に十分な時間を確保するためには、両社臨時株主総会を経て平成29年4月1日を本経営統合の効力発生日とすること、及び、変更後の経営統合時期を現時点で明示することは適切ではないと判断し、現時点では、統合会社発足日は未定としています。

(4) 本統合会社の商号

本統合会社の商号は現時点では未定です。今後両社にて協議の上、決定することを予定しています。

(5) 本統合会社の本社所在地

本統合会社の本社所在地は、現時点では未定ですが、発足日、又は統合後できる限り早期に現在の両社の本社所在地ではない新たな場所とすることを予定しています。

(6) 取締役会の構成

本統合会社の取締役会の構成は、両社の間で別途協議の上決定しますが、代表取締役及び業務執行取締役については、当面は両社から同数ずつ候補者を指名することを予定しています。

(当社と出光興産株式会社との協働事業の強化・推進)

当社及び出光興産株式会社は、本経営統合に先立ち企業グループを形成して協働事業を強化・推進（以下「アライアンス」といいます。）することに関し、平成29年5月9日付で趣意書（以下「本趣意書」といいます。）を締結いたしました。

両社は従前どおり本経営統合の早期実現を目指しつつ、本経営統合が実現するまでの時間も最大限有効に活用し、両社の企業価値をさらに向上させるべく、シナジー効果の先取りを図ります。両社は対等なパートナーとしてアライアンスを組み、両社グループの更なる競争力向上に努めてまいります。

(1) アライアンス名

両社は、アジア屈指の競争力を持つ企業グループとして、環境変化を先取りし、弛まず自己改革に取り組み、果敢に次代の創造に挑戦することを本協業におけるアライアンス・バリュー（価値観）とし、アライアンス名を「Brighter Energy Alliance(ブライターエナジーアライアンス)」と定めます。

(2) アライアンスの内容

(i) 国内石油事業における統合シナジーの追求

本統合にむけた準備の一環として、国内石油事業における統合シナジーの追求を積極的に実施していくことを通じ、協業により統合シナジー効果の先取りを実現します。

(ii) 重複分野における事業戦略のすり合わせ

本経営統合後に両社で重複することになる各事業分野について戦略のすり合わせを行い、顧客価値を向上させ、より効率的で競争力のある企業となるための方策について協議・検討を行います。

なお、販売事業については、各社の体制を直ちに変更するものではなく、当面は個社を基本に据えた事業活動を行うことを考えております。

(iii) アライアンスグループ及び統合新社の戦略検討

両社は、企業グループとして、事業の効率性及び競争力強化に資する可能性のある取組みや、中長期経営戦略、事業計画、投資計画等について両社トップマネジメントが参加する「戦略トップミーティング」等を通じて、前広かつ精力的に検討を進めてまいります。

(iv) 人的融和の推進

両社の文化、行動規範及び仕事の進め方の違いを相互に認め合い、その上で本経営統合後の文化、行動規範及び仕事の進め方を探求していくことで人材の融和を図ります。

(v) お客様視点での新たなサービス開発

両社は、アライアンスを通じ新たな視点でのリテール開発タスクチームを立ち上げ、特約店、販売店の皆様を通じて両社が有している多くのお客様の利便性、サービス向上に向けた商品・サービスを開発致します。

(vi) 社会貢献活動の一層の推進

現在、両社で実施している地域貢献活動、次世代育成に共同で取り組み、規模を拡大してまいります。

(vii) 低炭素社会実現への取り組み推進

両社が有する幅広い再生可能エネルギーメニューを活かした新たな二酸化炭素削減策を策定してまいります。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社以外の会社等の金融機関等からの借入に対し債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)	
バイオマス燃料供給事業組合	3,745百万円	バイオマス燃料供給事業組合	3,959百万円
従業員	357 "	従業員	327 "
計	4,102百万円	計	4,287百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
現金及び預金	19,741百万円	32,964百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	△1,190 "	△1,311 "
現金及び現金同等物	18,550百万円	31,652百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月29日 定時株主総会	普通株式	7,156	19.00	平成27年12月31日	平成28年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年8月10日 取締役会	普通株式	7,156	19.00	平成28年6月30日	平成28年9月7日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	7,156	19.00	平成28年12月31日	平成29年3月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年8月8日 取締役会	普通株式	7,156	19.00	平成29年6月30日	平成29年9月11日	利益剰余金

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	石油事業	エネルギー ソリューション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	784,476	63,099	847,576	4,005	851,582	—	851,582
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,153	1,847	5,001	3,941	8,942	△8,942	—
計	787,630	64,947	852,577	7,947	860,525	△8,942	851,582
セグメント利益又は損失(△)	18,349	△3,415	14,933	739	15,672	2	15,674

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等を含んでおります。

2 セグメント利益調整額2百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	石油事業	エネルギー ソリューション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	895,542	47,858	943,401	4,071	947,473	—	947,473
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,325	1,370	3,696	3,626	7,322	△7,322	—
計	897,868	49,229	947,097	7,697	954,795	△7,322	947,473
セグメント利益又は損失(△)	27,132	△4,237	22,894	444	23,338	23	23,362

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等を含んでおります。

2 セグメント利益調整額23百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	13円90銭	42円61銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	5,233	16,046
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	5,233	16,046
普通株式の期中平均株式数(千株)	376,631	376,630

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

会社分割による潤滑油事業の分社化

当社は、平成29年7月12日開催の取締役会において、平成29年11月1日を効力発生日として、当社が営む潤滑油事業（以下「本件事業」といいます。）を当社の100%出資会社であるシェルブルブリカンツジャパン株式会社（以下「SLJ」といいます。）に承継させる吸収分割（以下「本件会社分割」といいます。）について、SLJとの間で吸収分割契約を締結することを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

当社の潤滑油の製造、貯蔵、輸送、販売及び輸出入及びこれに付帯する一切の事業

(2) 企業結合日

平成29年11月1日（予定）

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収分割会社とし、SLJを吸収分割承継会社とする吸収分割(簡易吸収分割)

(4) 結合後企業の名称

シェルブルブリカンツジャパン株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社は、平成28年6月15日付のプレスリリース「会社分割による潤滑油事業の分社化の方針に関するお知らせ」及び平成29年5月12日付のプレスリリース「潤滑油事業の分社化にむけた準備会社の設立について」に記載のとおり、今後も引き続きお取引先様と共に成長し、かつ、お取引先様に当社の潤滑油を安定・継続してご使用いただける体制を確立すること、また、国内のみならず海外においてもロイヤル・ダッチ・シェルグループとの協働体制を維持・構築することで、現在グローバルにご愛顧いただいているお取引先様が期待する商品及びサービスの提供を維持・拡大することを目的として、本件会社分割に関してSLJとの間で吸収分割契約を締結いたしました。

2. 実施する予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

2 【その他】

平成29年8月8日開催の取締役会において、平成29年6月30日の株主名簿に記録された株主又は質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

(イ) 配当金の総額	7,156百万円
(ロ) 1株あたりの金額	19円
(ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年9月11日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 8 日

昭和シェル石油株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齊 藤 剛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 達 也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 橋 佳 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭和シェル石油株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭和シェル石油株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

追加情報に記載されているとおり、会社は平成27年11月12日付で出光興産株式会社との経営統合に関する基本合意書を締結し、協議を行っており、平成29年5月9日付で出光興産株式会社との協働事業を強化・推進することに関する趣意書を締結し、計画を推進している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月9日

【会社名】 昭和シェル石油株式会社

【英訳名】 SHOWA SHELL SEKIYU K. K.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長グループCEO 亀岡 剛

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都港区台場二丁目3番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
昭和シェル石油株式会社 近畿支店
(大阪市中央区道修町三丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル)
昭和シェル石油株式会社 中部支店
(名古屋市中村区名駅三丁目25番9号 堀内ビル)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長グループCEO 亀岡剛は、当社の第106期第2四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

